2　本年度の重点目標と達成計画

令和5年度重点目標	達成計画・取組方法
「業界が求める人材を業界とともに育成する」という産学連携教育としてのコンセプトのもと、一人ひとりの学生を大切にしながら、４・３年間で、創造力を発揮し、職業人としてコミュニケーション能力とマネジメント能力を駆使し、売れるデザイン、勝てる商品を生み出すベストクリエーターの育成を目指す。 クリエーティブデザイン科では、テクノロジーの技術進歩により職業は変化し、SNSによるロコミやYoutubeなどの映像媒体を活用した、幅広いデジタルメディアを駆使し広告コミュニケーション全体をデザインする人材が求められるようになった。そこで、基礎力の早期習得と企業プロジェクトによる強固な業界連携により、提案力、ディレクション力を兼ね備えた、複合的なコミュニケーションデザインが出来る人材を育成する。 漫画・イラスト・小説家などデビューを目指している学生に対しては、従来の出版社を中心とした連載・継続的な仕事獲得などのほか、近年ではWEBTOONやVtuberなどデジタルメディアの普及により職域が広がっている。在校中は当然として卒業後も支援するシステムを確立し、より編集部やゲーム会社、デジタルコンテンツ企業との関係性を深めていく。ただし、デビュー系学生のゲーム会社への就職は、3D技術が必須となっているので、その点のフォローも重要になっている。 ｅエンタテインメント科では特にゲーム業界や映像業界でのAI・VR・AR・MRの急速な発展に対応するため、UnityやUnrealEngineなど、ゲームエンジンの活用が重要視されている。これらの取り込んだカリキュラムの見直しと、それらの企業プロジェクトに取り組んでいく。 自動車デザイン科・スーパークリエーター科では創造力とマネジメント力、オリジナリティを持った人材に加え、グローバルな業界で活躍が出来る総合的な力の習得を目指し、トップランナー企業と連携しながら育成していくことが目標となる。 全学生共通としてはリテラシー教育の充実と徹底。（SNS・PC・ハラスメント関連）	クリエーティブデザイン科では映像編集の授業を強化した。また業界ゼミとして、最終学年向けに、ユニクロやピエールエルメ、日本ハムグループなどのグローバル著名企業とのプロジェクトを絡めた企業プロジェクトが定着し、SDGsに紐づいた企業価値創造に向けたマーケティング力やブランディング力を習得してコンセプト力を強化するとともに、企画のプレゼンテーションを行い指導受けることで、プレゼンテーション力だけでなく、トータルプロデュース力も習得出来てきた。 デビューを目指す学生には、デビュー力を高めるため、イラスト向けには複数の一流作家による作家ゼミを強化し、マンガ編集部による編集部ゼミを継続設置。小説では現役のライトノベル作家を複数名講師として起用した。また、出版社から学校への直接コミカライズ連載募集を複数実現させ、デビュー企業プロジェクトも開催、より実践的な授業展開でデビュー・連載率アップを目指している。さらに、卒後支援も複数社からのコミカライズ連載の紹介など継続して行っている。 eエンタテインメント科では、まずゲーム分野でUnityやUnrealEngine を活用したAI・VR対応のカリキュラムを業界講師の協力で強化した。マイクロソフトやFacebook Gaming、セガやバンダイナムコなど、日本トップクラス企業との産学連携を強化している。また、CG・アニメーション分野についても、上記ゲームエンジンを活用した映像づくりを行う企業が増えており、業界最新技術を積極的に授業で強化していく。 自動車デザイン科では今年、個人研究の形式でプロジェクトを実施していき、業界講師から直接高いレベルの実践的な能力習得を行っている。 スーパークリエーター科では、引き続きグローバル著名企業とのプロジェクトを実施。また、4年制学生共通授業として、フューチャーテクノロジープログラム（英語授業）を強化し、海外デザイン教育機関との交換留学を実施再開予定とする。 ITリテラシ―テスト及びHR等通じ時代に即したリテラシー教育を行う。

最終更新日付	2023年6月13日	記載責任者	東　妥衣子

令和5年度重点目標	達成計画・取組方法
各業界の動きが早く、ここ数年更に IT・AI 化を見据えたデジタル化が進んでいる。企業としても学生とのマッチングに WEB を使ったり、仲介業者に頼るなど人材発掘に苦労している部分は見受けられ、今後 WEB などを使って効率的に人材発掘を模索している動きもあり、DX 化を加速させる必要がある。 また、留学生をいかに就職させるかが TCA の命題でもあるため、引き続き １．日本語能力（特に会話力） ２．日本での就職システムの周知徹底 ３．プレゼンテーション能力 上記３つの課題対応を強化させる。 学生募集においては以下の５点を重点目標とする。 ①　ガイダンスからＳＮＳや動画、ＷＥＢサイトを使用したデジタル広報に移行 ②　4 年制専攻の募集強化 ③　ＡＯエントリーにて早期入学者の獲得 ④　部活動支援や高専連携で高校との強い関係を確立 ⑤　来校者満足度をあげマッチング率向上につとめる ⑥　高等課程新設に伴い入学定員充足率向上を目指す。 留学在校生対策は、以下の点を重点目標とする。 ①　留学生サポートセンターによるサポートデスクの定期設置 ②　日本語教育強化 ③　教務・教務事務との連動による出席率監視体制の強化 ④　問題の早期解決を目指した対個人対応方法の確立 ⑤　N1 取得のための模擬テスト充実	留学生就職支援ではポートフォリオ制作の早期化がある程度達成されてきたため、新たな取り組みとして、留学生就職先の拡大に力を入れていく。具体的には、既知企業へのビザ取得方法の企業へのフォローアップや、新規企業開拓などを行う。 合同企業説明会と単独企業説明会では昨年以上の企業を招聘することが出来た。今後は、内定につながるよう引き続きフォローを丁寧に行っていく。 学生募集においては、 ①　現状では高校生・留学生とも SNS による進学先情報収集が主流となっている。このため Web 広報に注力する。具体的には、ツイッターやブログ、LINE などに、継続的に学校の様々な情報を投下し、興味を惹いて来校数の維持・増進とコストカットを両立、Web からのデジタル AO エントリーを強化した。 ②　高校生の志望が 3 年制より 4 年制に移行しつつあり、業界からも TCA の教育内容で高度専門士としてのより高い内容を希求されている。このため、4 年制専攻の増強を行い、より高い教育内容を目指す。 ③　広報活動をキャリア教育の一環と捉え、クリエーターを目指す人たちのための新ジャンルを見据えた産学連携イベントを企画した。具体的には既存のイラストレーターの枠に収まらない活動を行うトップクリエーターの講義などを複数回実施した。 ④　高校の先生方に本校の教育内容や人材育成への取り組みの理解を得る。また、通学の便が良い首都圏からの来校者を増やすために高校への訪問を増やし「高校からの信頼」を得る。部活動支援にも力を入れている。 留学生対策については、留学生サポートセンターのさらなる強化と、個人との交換日誌システム導入により、問題の早期発見・早期解決を強化している。また、日本語授業も講師派遣会社を変更してさらに強化し、留学生の日本国内就職に向けて、日本語力向上の施策を実施している。

最終更新日付	2023年6月13日	記載責任者	東　妥衣子

令和5年度重点目標	達成計画・取組方法
就職に関しては、以下の点を重点目標とする。 ① 一人ひとりの学生にマッチした就業支援を行い、学生の信頼を獲得する。 ② 同窓会組織を確立し、卒業生ネットワークを強化。求人及び業界研修の機会拡大を実現する。 ③ 時代に先駆けた人材育成を図るため、業界とより強固なパイプ作りをしていく。 ④ 卒業後のキャリアアップを図るため、卒後支援の強化・充実を図る。 ⑤ DX時代の新たな雇用・産業へのアプローチを強化。関係づくりを積極的に行う。 ⑥ 障害者就労支援・就労移行支援事業所等、公的機関・民間機関とも連携し、卒業後の就労支援を強化する。	就職においては ① 就職希望者全員内定は基より、早期内定獲得、更なる対象率向上へ向け学生指導を強化する。 ② 業界のニーズに合わせた多種多様な合同企業説明会を開催。 ③ 就職先・インターンシップ先の新規開拓を継続して実施する。 ④ 留学生の就職強化（日本企業での就職と海外企業への就職支援） ⑤ 卒業生のキャリアアップ支援を実施する。 ⑥ 同窓会組織のさらなる確立。特に2000年以前の卒業生の掘り起こしを強化する。

最終更新日付	2023年6月13日	記載責任者	東　妥衣子